

誹謗中傷防止対策に関する意見

公益社団法人日本プロサッカーリーグ

● Jリーグに対する誹謗中傷の実態・傾向

- プレーや判定への不満の矛先が、当事者の選手や審判員へ向けられる
- 時として、Jクラブ、リーグ（団体）やその個人も対象となる
- 主に Twitter だが、時折 Instagram や Facebook でも起こっている。
- ある審判員は、Twitter への削除申請を何十、何百と送った
- 個人のプライバシーに関わる内容も最近あった。
- 殺害予告など身の危険を感じる内容もある（警察へ相談するケースもあり）
- 外国籍選手に対する人種差別的な投稿
- サポーターになりすまして、選手や他のサポーターを誹謗中傷するケースも

●プラットフォーム事業者における対応の透明性について

① コンテンツモデレーション基準の明確化

- ▶ アカウント停止を求めた場合に措置をするかしないか、実施基準が不明確
- ▶ 削除対象になる事例集のようなものがあるとよいのではないか
- ▶ コンテンツモデレーションを実施する場合の理由の通知をしてほしい
(理由がよく分からないまま、アカウントが停止されるケースもあるため)
- ▶ コンテンツモデレーション申請をしても対応ができないケースや、理由が分からないままコンテンツモデレーションを実施されてしまったケースについての苦情処理を適切に行ってほしい

② 発信者情報開示への対応の明確化

発信者情報開示への対応が明らかになることで、抑止力に繋がるのではないか

③ 申請窓口の設置

コンテンツモデレーションの申請に対するレスポンスが遅く、長い場合1～2ヶ月くらいかかっている。適切な対応がなされるよう、オープンかつ迅速に対応する窓口の設置を義務付けてもよいのではないか

④ プラットフォーム事業者におけるコンテンツモデレーションの実施体制

コンテンツモデレーションを実施するか否かの判断主体が日本にないと思われるため、日本の慣習や法律を踏まえた対応ができるようにしてほしい

●プラットフォーム事業者に求めたい役割

① 繰り返し投稿する者への対応

- 被害者からの申立に基づいて、「以後、類似の投稿は控えてください」という趣旨の警告を送ってほしい。
- 本人確認情報を事業者が把握するようにしてほしい

② DMによる誹謗中傷への対応

③ 自主規制の取り組み

違法もしくは不適切な文言を、例えばA I技術で自動検出し、投稿しようとする

「違法性がある内容です」「問題があります」といった警告を発するような仕組みはできないか

④ 削除請求への対応

受け取った本人が不快を感じ訴え出たものについては「当人にとって不適切であるもの」として、削除することはできないか